

# 特別支援学校における 自己決定・自己選択の育成について

## 1. 研究目的

本研究では、障害の有無にかかわらず、支援を受ける人が安心して発言し自己決定できる環境づくりについての提言を行うことが今後の社会に向けて必要なことであるとの観点から、「知的障害児における『安心して発言・自己決定できる環境づくり』の構築に関する研究」(辻, 2021) から始まった一連の研究を基に、朝の自立活動(20分)の時間等を通して「自己選択・自己決定ができる」ことや「決定したことを相手に伝えることができる環境」について検討し、本人が安心して自己選択・自己決定ができるようになるまでの有効な支援方法や環境等について考察し、提言を行うことを目的とする。

## 2. 研究方法

【研究対象】 高等部2年生 0コース2名、Lコース3名の計5名 【対象授業】 朝の自立活動(20分)・クラスの時間  
【研究方法】

研究対象とする授業では、①漢字、②ローマ字、③タイピング、④数学、⑤その他の5つの課題から、生徒が取り組む課題を選択することとした。2学期の第1回目の授業では、2学期に頑張りたいことと具体的な目標について考えた上でプリントに記入するよう促した。また、課題の区切りとなる日にちを事前に伝え、授業の最終日には目標に決めた課題のテストを行うことを伝えた。2回目以降の授業では、活動のはじめに2学期の目標を記入したプリントを配付してから課題の選択を行い、学習終了後には本時で取り組んだ課題の内容と成果をプリントに記入する時間を設けて振り返りを行った。

## 3. 結果

第1回目の活動時に、ある生徒から「まんべんなく課題に取り組みたい」という希望が出された結果、5名中4名が「タイピング」1名が「①漢字、②タイピング、③数学、④英語(ローマ字)」という目標設定となった。

タイピングを目標に設定した生徒は基本的にタイピングを選択し、「まんべんなく課題に取り組むこと」を選択した生徒は、プリントに記した振り返りを確認しながら課題が約2回ずつになるように課題を選択する様子が見られた。

## 4. 考察

以上の結果から、目標を設定すること、自分の目標を確認してから課題の選択を行うこと、成果を振り返りとして記録することにより、自分が決定・選択したこと(課題に取り組んだ回数)を視覚的に確認することができ、それが積極的な意思決定や課題への取り組みにつながったのではないかと考えられた。つまり、自分で目標設定を行うこと、授業日程や時数を明確化すること、毎回振り返りを行うことなどを通して、自ら見通しをもちながら活動を行うことが自己決定・自己選択の促進にとって有効であったと考えられる。

また、表1に示した5つの場面は、生徒の自己選択・自己決定力の育成において効果的な要因であると考えられる。それに対応した具体的な支援の方法としては、自分の考えや決定したことを安心して相手に伝えられる環境でなければ、自分の意思を表出しにくいのではないかと考えられることから、「①発言しやすい、自分の気持ちを相手に伝えやすい環境づくり」を通して信頼関係の基盤を構築しつつ②~⑤の項目へと移行していき、①~⑤の項目を繰り返しながら自己決定・自己選択の能力を向上させていくのが望ましいのではないかと考えられる。

さらに、活動や学習の内容に応じて使用するプリントを変化させながら取り組んでいくことも効果的ではないかと考えられる(図1・2)。そして、辻(2021)で提起した「自己決定ができるまでの流れ」を使って個々のエピソードをまとめながらチェックを行うことで、生徒の自己決定・自己選択の状況や過程を視覚的に確認および検証することができるのではないかと考えられる。

## 引用文献

辻 奈誠子 2021 知的障害児における「安心して発言・自己決定できる環境づくり」の構築に関する研究 大阪教育大学附属特別支援学校令和2年度紀要,114-122.

表1 自己決定・自己選択の効果的な育成の流れ

場面	効果的な支援方法
①発言しやすい、自分の気持ちを相手に伝えやすい環境作り(信頼関係を形成)	・カウンセラー側の3つの条件 ①自己一致、②無条件の肯定的態度、③共感性理解 ・心理安定型支援等の受け入れられる経験 ・アドラー心理学の勇気づけ(通称「エンカレッジメント」(野田,2017))の勇気づけるメッセージを用いて、応用行動分析学の社会的称賛 ・心理安定型支援(橋爪,2011)
②課題や目標の明確化	・様々な場面で選択肢を提示 ・選択肢を増やす、又は選択肢を提示せずにどうしたいかを尋ねる等して少しずつ支援を減らして、自己決定の幅を広げる。
③作業や期日の明確化	・プリントを活用した、見通しを持った活動。 ・視覚支援やことばかけ等の促し
④提示されたものも含めた課題の選択・決定	・様々な場面で選択肢を提示 ・選択肢を増やす、又は選択肢を提示せずにどうしたいかを尋ねる等して少しずつ支援を減らして、自己決定の幅を広げる。
⑤失敗や成功といった様々な経験	・振り返りや自己評価 ・失敗しても良いこと(失敗は悪いことではないこと)を伝える。 ・スモールステップでの成功経験 ・次回への展望

教科( )		なまえ( )	
日にち	作業		
月 日( )			
月 日( )			
月 日( )			
月 日( )			
月 日( )			

作業中...○ 完成...◎

図1 活動や作業内容が全員同じである場合

①頑張りたいこと

( )① ( )② ( )③  
( )④ ( )⑤その他( )

②具体的な目標を書いてみよう!(例)

③日にちと成果を記録しよう! よくできた→◎ できた→○ もうすこし→△

内容	日にち				
①					
②					
③					
④					
⑤その他					

図2 個別学習等の場合